**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」**

**お名前：　　吉川貴三子**

(下記より本文をご記入ください)

私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験
札幌創成家庭教会　吉川貴三子

私は18歳の時世界平和統一家庭連合に入教して、創始者の文鮮明総裁、韓鶴子総裁を知るまでは韓国という国は小さくて貧しい国という印象しかありませんでした。統一教会に入教してはじめて韓国という国の歴史民俗性について学びました。そして、救世主と言われる偉大な方が誕生した国であると知りました。
韓国は日本人がそうであるように、とても国を愛しており誇りを持っている民族だと思いました。歴史上注目されることはあまりない、苦しい悲しい歴史が多く、それでも国と民族の誇りを持ち、愛情表現の豊かな韓国の民族性に感動しましたし、うらやましく思いました。私は教会活動の中で、実際に韓国からお嫁に来た韓国人女性と交流する機会があり、あらためて韓国の方の愛情の深さに感動して、私も結婚するなら韓国の人がいいな、と思うようになり、実際そのようになりました。
私たち家庭の課題はまだ多くあり、その壁は乗り越えている最中であります。しかし、南北統一は必ず成し遂げなければならないと感じます。もし日本が東日本と西日本に分断されて、70年も同じ民族でありながら、会うこともできないとすれば、それはどんなに苦しく悲しいことでしょうか？考えるだけで胸が詰まります。しかし実際に韓半島でそれが行われています。そして現在の政治情勢はとても厳しいです。では諦めなければならないのでしょうか？
1991年11月30日文鮮明総裁韓鶴子総裁は北朝鮮に宗教人として金日成主席に会いに行かれました。そこであまりにも堂々と主体思想では国は発展しない、神主義でないといけないと高官たちに語られたと聞いています。しかし、実際に金日成国家主席に会われると、家族のようにお兄さんのように感じると心を伝え、金主席もそれを受け止められ、二人で抱擁しあい、手をつないで写真撮影されました。どんなに尊い時間であったでしょうか？
皆心の中では韓国北朝鮮の平和的統一を願っています。韓半島の平和的統一は全世界の平和につながると考えています。今すぐに政治的解決の道が見えないとしても、私はまず宗教人として、願うことを希望をもって諦めないようにしたいと思います。そしてより多くの人が宗教や民族を超えて、心ひとつに願って韓半島の平和的統一に関心を持てば、道が開けると思いますし、逆に諦めていては平和的統一が本当に難しくなる可能性があります。関心をもって今回のようにスピーチ大会をしたりエッセイをかいたりすることは大変意義があると思います。